
妄想家と哲学者

山羊ノ宮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

妄想家と哲学者

【Zコード】

Z8539Z

【作者名】

山羊ノ宮

【あらすじ】

『妄想家は現実を知り、夢を見られなくなつた。意味不明だね。『めんね』と高校の卒業アルバムに書いたような記憶。確か元の話がこんなだつたような。もう、あの高校はなくなつたのだつけ。

いつも通りその酒場はにぎわっていた。

妄想家達が同じテーブルを囲み、葡萄酒を酌み交わしている。

「で、その魔女が言うには楓の木の下に人骨と宝箱があるっていうんだ。俺は正直ビビったね。だが、俺は勇気を出してその木の下を掘った。そしたら……」

「俺の話も聞いてくれ。この間話した森で出会った女の子がいただろ。その子がさあ、実は俺の事が好きだっていうんだよ。俺が言い淀んでたらさ、何だか話がどんどん進んで行っててさ。あっちの子からもこっちの子からもって、もう俺の体持たないよ。どうしたらいいと思う?」

「そう言えばさ。この世界のどこかにい世界につながる扉があるらしいんだ。その扉をくぐるととてもない力を得る代わりに、一度と元の世界のは戻られないって話。知らないかな?実は俺、その扉を見つけてしまってさあ……」

「ワイワイガヤガヤ」と妄想家達の饒舌が乾かぬよっこ、葡萄酒は進む。

「トイレ、トイレ。トイレは何処かにやー」

と一人の妄想家が用を足そうと席を立つた。

ふらふらとした足取りで、思わず他の席に座つていた密にぶつかる。

「おっと。すまにやー」

ぶつかったのは一人ちびちびと蒸留酒を飲んでいた哲学者だった。哲学者は文句を言つでもなく、胸元からハンカチを取り出し、妄想家が触れたところを拭つた。

「なんだ? 感じ悪いぞ?」

そして、すくと席を立ち、妄想家達を見渡す。

「何だ? やうのか? 来るなら来い! 俺は実はとつてもつおひんだぞ

ー

妄想家の拳がなよなよと繰り出された。

哲学者はそれを意に介さず、ハンカチを胸元に仕舞つた。

「お前達の話は聞いていて虫唾が走る。どれもこれも実体のないホラ話。お前達の話は無駄なのだ。何の役にも立ちはしない」

「ン、何だと？」

「今から畠にでも行つて、口に手を突つ込んでさつきまで飲んでいた酒をぶちまける。その方がいくらか役に立つ。虚構は虚構だ。意味の無い、生産性の全くないお前達の話は無駄だ」

哲学者はコートを羽織り、帽子を深くかぶり、お金を払つて、しつかりとした足取りで帰つていった。

「あんた！あのにゃーは！」

妄想家達は一斉に去つていった哲学者を罵倒し、その夜は哲学者への不満で盛り上がつた。

それからである。

妄想家達がいつも通り集まり、自分達の妄想を語りうつとすると、沈黙が訪れ、時々止まるのである。

『お前達の話は無駄だ』

その哲学者の言葉が妄想家達の頭をよぎるのである。だんだんと話は盛り上がりに欠け、人が一人減り、一人減り。そして、妄想家達は現実を知り、夢を見られなくなつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8539n/>

妄想家と哲学者

2010年10月28日02時53分発行